

国語プリントNo. ()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

百人一首で覚える助動詞②

不確定な助動詞②・推量・推定・打消・打消推量・反実仮想

① (75) 契りおきしさせもが露を命にてあはれことしの秋もいぬめり(推定・終止形)
 (約束が果たされないままに) ああ、今年の秋もむなく過ぎるようだ

② (83) 世のなかよ道こそなけれ思ひ入る山のおくにも鹿ぞ鳴くなる(推定・連体形)
 鹿が(悲しげに)鳴いているようだ

③ (94) みよしのの山の秋かぜ小夜ふけてふるさと寒く衣うつなり(推定・終止形)
 衣を打っているようだ(「うつ」……タ四であるが、文脈・または本歌から伝聞推定と判断できる)

④ (42) ちぎりきなかたみに袖をしぼりつつ末のまつ山波こさじとは(打消意志・終止形)
 末の松山を波が越すまいと(あり得ないことを起こすまいと)

⑤ (51) かくとだにえやはいぶきのさしも草さしもしらじな燃ゆる思を(打消推量・終止形)
 それほどとは知らないでしょう

⑥ (10) これやこの行くも帰るも別れてはしるもしらぬもあふ坂の関(打消・連体形)
 知っている人も知らない人も

⑦ (17) ちはやぶる神代もきかず龍田川からくれなゐに水くくるとは(打消・終止形)
 神代にすら聞いたことがない

⑧ (44) 逢ふことの絶えてしなくはなかなか人に身をも身をも恨みざらまし
 (打消・未然形 反実仮想・終止形)
 男女関係が絶対にならないのであれば、かえって、あの人を恨んだり自分自身を恨むことは~~ない~~のに。
 反実仮想

⑨ (43) あひ見ての後のこころにくらぶれば昔は物をおもはざりけり(打消・連用形)
 (契りを結ぶ) 以前は物思いをしてい~~なかった~~ようなものだったよ

⑩ (92) わが袖は潮干に見えぬ沖の石の人こそしらねかわくまもなし(打消・已然形)
 私の袖は、干潮の時にも海に没して見え~~ない~~沖の石のように、人は知~~らない~~が、……